

地域は舞台 YOSAKOIソーラン祭り(北海道札幌市)

文||御厨貴 写真||鈴木勝

光と音のページェント

# 見よ群舞の力、 一瞬の身体の輝きを！

## YOSAKOIソーラン祭り

高知の「よさこい祭り」に感動した学生たちが1992年に札幌市で始めた祭り。手に鳴子を持ち、北海道の民謡「ソーラン節」にちなみ、「ソーラン、ソーラン」というフレーズを入れるというルール以外はすべて自由。音楽、衣装、振り付けもすべて参加者が創作する。2014年6月4日から8日の5日間にわたり第23回を開催。全道および全国から2万7千人が参加し、200万人近い観客を動員した。企画運営はYOSAKOIソーラン祭り組織委員会が行い、市民や学生のボランティアのべ4000人がこれを支えている。

写真は第23回YOSAKOIソーラン大賞を受賞した<sup>札幌市</sup>「<sup>舞</sup>夢  
連えさし」(北海道枝幸町)の演舞。

YOSAKOIソーラン祭り組織委員会

<http://www.yosakoi-soran.jp/>

## 札幌の名物行事

大通公園のファイナルステージでは、連戦を勝ち抜いて来た十二組のチームの演舞が華やかにくり広げられていた。それは天まで届けとばかりの人と音と光のページェントに他ならない。人と人が織りなす群舞のすばらしさに、観客もいつしか「観戦」の体で舞台の中にグイグイと引きこまれていく。そして個性的な衣装が一齐に早がわりするとオオーというどよめきがおこる。単に一つ一つの踊りを「鑑賞」する態度に止まらない。今年はどこが優勝するのかという格付け「審査」に、知らず知らずみんなが動員され参加しちゃうっているのだ。この盛り上がり方はスゴイ。体験した者だけに分る、打ち震えながら身体の内から燃えたいぎょうに出てくるワオーツという叫び、この

一瞬にステージと観戦者たちは一体となつて融け合う喜びを味わう。そうだが、このために来たんだよと。

いや、身体で表現することはこんなにも楽しく生き生きするのだと、改めて思う。人は誰でも躍動する身体に思わず足を止め見入ってしまう。その意味で、昼間は大通りでの地方車じかたろを引いての各チームの群舞のパレードが我々の目を釘付けにする。もう各所での踊りに疲れ、しかしテンションの高さは変わらない、パレードの一群に対して、思わず「ガンバレ！」と声を発している自分に気づく。そして思う。ステージにせよ、パレードにせよ、めくるめくこの身体表現の現場の魅力は一体何なのだと。

今や夏を迎える北海道は札幌の名物行事である。六月初めの数日間、札幌のマチはYOSAKOIソーラン祭り一色に染まる。今年で二三回目。一九



参加した270チームの中から選ばれた12チームが、大賞を目指して競い合うファイナル・ステージ。選り抜かれたチームの踊りのレベルは高く、有料の観覧席(5000円)もすぐに売り切れになるほどの人気だ。

### 時代とともに

九二年から始まった、その意味ではまったく新しい祭りだ。伝統的な地域文化とは無縁である。そもそもが高知の「よさこい祭り」に惹かれた北海道大学の学生、長谷川岳が中心となり、「よさこい祭り」の鳴子と北海道の民謡「ソーラン節」とを異種混合して作り上げた人工の祭りだ。

二〇世紀末、そして二一世紀初頭という、この国の政治・経済・社会のあり方を大きく変動させた二十一年間に生まれ育った祭りとして、時代の刻印が強く刻まれているのも確かだ。まさ



札幌の中心南北の大通りで開催されるパレード。



チームごとに衣装、小道具にも工夫を凝らし競い合う。

にこの時期にサントリー文化財団の地域文化研究に携わるようになった自分としては、今を去ること十三年前の時点でのYOSAKOIソーラン祭りとの出会いはやはり衝撃的だった。この新しい祭りのリーダー長谷川岳は輝いていた。とてもまぶしかつた。今は参議院議員で政治家として立つ。祭りはいつしか長谷川の手を離れ、札幌あげての大きな組織(YOSAKOIソーラン祭り組織委員会)が運営するようになった。それでも学生主体の祭りであることに変わりはない。初心を大切にしながらも、試行錯誤の連続で少しずつ祭りは変わってきたのだった。

長い伝統を誇る祭りの場合、変革は衰退の兆しと共にやってくる。あるいは代替わりの際に、伝統と革新がせめぎ合う。YOSAKOIソーラン祭りは、そうした古い伝統を生き長らえた地域文化とは趣きをまったく異にする。

そもそも地域文化であるかどうかも疑わしい。札幌という大都市に忽然と現われたイベントなのだから。だからこの二十年、忽然と消えるヤワな祭りではないことを、毎年大胆かつ繊細という矛盾する表現がびつたりする変化を見せながら、事実として証明してきた。もつとも祭りが大きくなるにつれ、行政や警察や経済団体とも、いや時に札幌住民との間にも、常に軋みは絶えなかった。タクシーの運転手は、ごつた返す大通りや通行禁止の通りに、舌打ちをしながら「商売上がったりですよ」と言う。しかしだからと言って祭りを否定するわけではない。

つまり、二十年余でYOSAKOI

ソーラン祭りは、柔構造的組織によるやわらかい対応能力をもつてこの地に定着したのだ。その一端をふり返ってみよう。数で言えば二〇〇一年を境に参加チームは減少傾向にある。パブル崩壊後は企業のスポンサーチームや社会人チームが減った。そして北海道もまた御多分に漏れず、過疎化と高齢化の波をモロに受けて、道内の小さな町で活動していたチームが減っているのだ。祭りでマチおこしは難しいという現実の反映だ。このあたり、日本社会の変容と連動していることが分かる。しかし逆に、学生チームと北海道外からの参加チームは増えている。若い世代と中堅世代に担い手が拡大した訳だ。

これらはまた、YOSAKOIソーランの身体表現を、よりカラフルにより多様なものに変化せしめていく重要な要素となる。そして中学生以下のジュニアの参加とレベルの向上が、近年の特徴である。確かにダンスといった身体表現が、小学校のカリキュラムに取り入れられるなど、祭りの持続にふさわしい環境も整いつつあるのだ。

さらには審査方法の「大衆化」と「多様化」が進んだ。ある時期はプロの目線がモノを言い、審査スタイルが固定化することによる祭りのダイナミクスが失われかけた。そこで近年はアマチ

ソーラン祭りに参加するあるいは観戦する経験を持ち、憧れの実行委員にという流れが定着している。はは〜ん、これが伝統の形成であり、若い人材の育成につながるのだ。

### 「平成君」たち

だが今風若者の困ったちゃん現象も起きている。それは何か。リーダーシップを発揮する学生がいらないことだ。実行委員長の引き受け手が決まらない。決まったところで、自らの責任で決断し、あとのメンバーを説得して引っ張って行くことが出来ない。組織委員会からの提案を流し、多数決で決めるという世話役に徹する。これは深刻な問題だ。大学生と接していると、ゼミでもサークルでも同じことがおこる。人と人とのゆるいつながりを求めて集まるから、目立たず嫌われず仲良くの精

ユアリズムを大動員し、一般公募と中学生までの年齢引き下げ、全国化をはかった結果、上位チームの偏りが是正された。そうか、「裁判員制度」導入による、司法の「民主化」と同様、祭りの「民主化」が進んだのだと実感する。

運営面というと、学生実行委員の数は増え、しかも今の現役は、子供の頃にYOSAKOI



中学生以下の子どもたちによるジュニア大会も毎年開催。写真は準大賞に輝いたフルーフバスケットジュニア劇団果実龍 Jr.(札幌市)



上：踊りに必要な鳴子。  
下：サタデー・ナイト・パレード。



上：1997年から出場している動・夢・舞。2歳から80歳まで総勢80名が参加。  
中：大通りに設けられた観覧席。有料席と無料席があり、パレード見物に最適。  
下：深夜まで撤去作業を行うボランティア・スタッフ。その多くが学生だ。

政治家になつた者が一つの力になりそうな程、出始めているとも言える。広がりや深まり。そうか、この祭りはまだまだ進化途上なのだ。

ので入れ替わりが激しく、十年十五年選手が出ないのが悩みだ。ブイと官庁や会社をやめる若者とまったく同様だ。しかも学生実行委員の話と同じく、リーダーの存在がない。仲良しこよしの世界で、すべてが指示待ちの行動なのだ。三十代から四十代のOBの活動

でまかなっているものの、それを引き継ぐ者が出てくるかどうか、心配の上ない。でも平岸天神は、その現状を受け入れつつ、老舗ならではの経験と知恵で、祭りの伝統に賭けるに違いない。伝統とはそういうしたたかさなのだから。

YOSAKOIソーラン祭り。一瞬の感動をもう一度味わうためにこのリーダー的な気分が自然とわいてくる。そしてこの祭り特有の不思議な現代性に思い至る。今や日本各地にこの祭りをモデルとした新興の祭りが育っている。また長谷川岳を始めこの祭りに関

わつた若者の中から、ここでも若者論、人材育成論に焦点が集中する。現在のメンバーは八割が「平成」生れた。文字通り祭りは「平成君」が担い手となったのだ。でも体育会系は減り、団体生活になじみがなく、協調性に欠けたいわゆる普通の子たちが入ってくる。合わないとすぐやめる

神で、肝心なことが決まらない。こんな若者の特徴は、ここ二十年のことだ。この国の政治・経済に活性化の兆しが見られないのは、寄らば大樹だからだと痛感させられる。では、YOSAKOIソーラン祭りとは、ほぼスタートと同じくし、優勝経験も過去八回と最多のチーム「平岸天神」ではどうなのか。つまり平岸商店街が地域活性化のために、長く活動してきたその老舗の力が大きかった。それは常にハレの祭りのために、ケの祭りの日常の準備をいかにしうるかにかかっているからだ。



1992年結成の平岸天神。力強く、スピード感のある踊りに定評がある。中学生以下の子どもたちによるジュニア、OBによるマスターズを含め、総勢210人。



分散会場のひとつ平岸会場は、平岸商店街の人々が運営。

